

1977. 6

PIONEERING PROJECT



日本ボーイスカウト京都連盟
北山地区 一休さん の会

パイオニアリングプロジェクト

BS英國連盟 PROGRESSIVE PIONEERING
BY JOHN THURMAN より

以前にも述べたように、もし隊や班が何の疑問も持たずには常に同じ橋ばかりを組立てているなら、その橋については素晴しく組立てられるだろうがもはやパイオニアリングに対するひらめきや冒険精神はなくなり新鮮な気持で練習できなくなるだろう。今までに試みたことのないプロジェクトに取組むには当然スカウターはスカウトに援助と激励を与える必要がある、しかしその前にいくつかの、明らかなしかし時として見のがしがちな、ポイントを確かめるべきである。

- 1 そのプロジェクトが少年の年令と経験に適していることを確かめなければならない。
- 2 必要資材が有効なものであることを確かめなければならない。このポイントの確認をせずに即座に作業を行なえば、ばかばかしいことや危険なことさえ起こりかねない。
- 3 周囲の状況（自然及び人工の）がこれから行なうプロジェクトの特性に適合していることを確かめなければならない。極端なことを言えば、いかだを組立てたってそれを浮かべる水がなければ使えないし、森の中やジャングルでヨットを造っても無意味である。スカウターはパイオニアリングを行なう地域の有利な点と不利な点を注意深く考慮すべきで、それによって隊又は班に対し状況に適したプロジェクトの選択を指示できるし、最終的選択をする余地もある。
- 4 プロジェクトは与えられた時間（スカウトが充分組立てられるだけの時間を与える・スカウトの技量から判断する）には完成されなければならない。私は最大2時間与えるだろう。私が奨励するこの規則の唯一の例外は夏季野営の一部として組立てられる大規模なプロジェクトにあたる時である。その場合数日にわたって行なうのが良いが、スカウターはスカウトの熱意がプロジェクト完成までの努力を支え、重い丸太を持ち上げるという様な苦しい作業が全員の負担であるべき事を確かめる必要がある。

シニアスカウト諸君

この小冊子は君達が隊又は班においてパイオニアリングの計画を立案する時に少しでも役立てばと思い作成したもので、本当はこんなものが無くとも君達は一人前にやっていると思うけれど、より素晴らしいパイオニアリングが行なえるために利用して下さい。

「こんなもの利用せんでも、オレの班はピラミッド・タワー作らせたら天下一品にできるんだ」…ごもっともな意見ですが、ちょっと待って下さい。なるほど君達の作ったタワーは本当に立派ですが、それだけに満足していて良いものでしょうか???

パイオニアリングっていったい何んだ?……もう一度ゆっくりと考えたいものです。マニュアルに書かれているだけのものをその通り組立てて「ハイッ!パイオニアリングが終りました」と、すまし顔でいられるものでしょうか?それより、自分自身で考案した独創的なものを苦しみながら案出し、それを完成させた時の喜びを味わう方がより素晴らしい、シニアスカウト活動らしいのでは?それがうまくできなくても良いではないか!最初から完全なものが出来るわけがない…とわり切って、この次はもっと良いものと目指していったら……それがプロジェクトなのです!

いったいどうすれば独創的なパイオニアリングが行なえますか?これに対する答は唯一つしかないと思います。「パイオニアリングに慣れなさい!」慣れろと言ったってどのようにして……そこで先ほどの話に戻りますつまり「マニュアルに書かれているものを何度も練習してそれに慣れろ」。ちょっと待てよ、おかしいぞ????????既成のものに満足するなと言ったり、それを徹底的にやれと言ったり。でもそれが本当なのです。単に満足するだけで終ってしまったならそれはスカウト活動ではなく「さるまね」と言われても仕方ないでしょう。そんなスカウトのことをある人は「モンキースカウト」と呼んでいます。

我々はマニュアルに書かれたものを単に繰返すのではなく、そこから大事な情報をいろいろ集めながら作業を行ない自分自身のパイオニアリングに対するセンスと知識を養うのであり、だからこそシニアスカウトなのです。我々はいつも、より大きな目標に向かっているのです!!!

1 パイオニアリングをなぜ行なうのか？

この種の質問はよく聞かれます。一般の人からもスカウト関係の人からも。シニアスカウト諸君にしたって「しんどいばかりの」パイオニアリングを考えるより、ガールスカウト団とダンスパーティでもやった方が良い…と考えているのではないか？隊長がやれって言うから仕方なくやっていたって何にもならない…とツツツツ不満を言う声が聞こえてくるような気がします。

残念ながら私には君を説得するだけの言葉もないし頭にしたって良くないので。そこで、答として英國連盟から発行されている PROGRESSIVE PIONEERING という書物の序文に著者の JOHN THURMAN が書かれている内容がぴったりなのでその転載しておきます。下手な訳になりましたが許していただきたいと思います。

「どうしてパイオニアリングなどするのだ？」「いったいそんなものが何の役に立つのだ」というような皮肉屋さんの言葉を耳にすることがある。パイオニアリングを正しく評価するのには次に述べる実際にあった話がもってこいである。スカウト活動の創草期からの抱括的考え方の一つは「そなえよつねに」であったし、この言葉はいかなる国・いかなる立場いかなる年代の者にとっても意味があると思う。

毎日雨であった。それが雨であるか単なる夕立であるかなどという議論の余地のないほど確実な、確実という言を取り消すことができないほど確実な豪雨であった。唯一の不確実な事は雨が1時か2時か3時に降り始めるという事だけで、いつ降り始めようとその後12時間は確実に降り続けた。そのため、9日間降り続いた翌日の9月23日・日曜日の午後2時に雨が再び降り始めてもおどろかなかった。

我々、私自身と南中北米大陸及びカリブ海からの計15カ国から集まったトレーニングチームのメンバーはその前夜、午前〇時にたゆまない努力を必要とする、骨を折れる、しかし満足すべき「トレーニング・ザ・チーム」コースを終えた。そのコースはMeztitlaという所にあるメキシコ国立訓練センターで催された。キャンプサイトはかなり山岳地域の中のゆるい傾斜地にあるジャングルを切り開いた所にあった。

私はメキシコで行なうべき事を全て終り、この日曜日には全ての責任から解放され、メキシコのスカウト達が計画した最後のセレモニーに満足していた。その日の朝は輝やかしい日光と新鮮なそよかぜで素晴らしいものであった。

キャンプ場は足もとが少しぬかるんではいるが可愛らしく思えた。15カ国の国旗は中央広場に堂々と翻えていた。

かなりの要職にある訪問者が集り始めていた。すなわち、メキシコの教育大臣、英國大使館の一等書記官、州知事、市長とその支持者達、コースを受け持った者達の妻や家族親類及び祖父母である。スピーチが行なわれ、式次第が厳粛に、成功裏に進行していった。私はギルウェルにある一つから直接採ったB. P. の足跡のレプリカを除幕した。（私は足跡に對して除幕というのが正しいかどうか知らない、おそらく、除クツ下又は除クツとでも言うのだろうか）スピーチを予定されていた人が全てスピーチし、予定されていなかった人も数人スピーチした。スケジュールをあと1時間程残すだけとなり、格式ばったものが全て終り、後は不礼講(Fun)を始めるばかりであった。バーベキューが華々しく用意され、それは見たこともない様な料理ばかりで、熱ためられ始め、素晴しく着飾ったメキシコ人の男女によって給仕された。これらは典型的メキシカンバンドによって伴奏されていた。

不礼講が最高調に達し、最初の食物が無くなった時、雨が再び降り始めた。しかしキャンプ場が良く設営されていたので、バーベキューや招待者、コースのメンバー達はコース期間中食堂に使用していた大きな開きっぱなしの小屋に移動した。ほんのわずかな中断でパーティーは再開された。バンドは暴風雨の音を上まろうとより大きく、速く演奏した。いなずまが光り、雷が響き、バイオリンが悲鳴をあげ、ダンサーが笑い声をあげた。それは全くのパーティーであった。

ヨーロッパ人にとってその様な雨を考えるのは困難で書き表わす事ができない。時間が止まってしまう様な気がする。多くの人が2秒程で皮膚まですっかりぬれねずみになってしまった。道だった所は完全に河となっていた。この付近をよく知っている人達が小川を横ぎり、キャンプ場に唯一接近している浅瀬を渡ろうと勇敢に出かけて行った。彼らはそこがもう渡れないという知らせを持って帰ってきた。10センチの深さの流れは既に1メートル弱の深さの川となっていた。我々数人が現場を調査し事態を判断するため出かけた。事態は確実に悪化していた。小川は今や、巨大な石、木の幹、堤防であった土塊などを押し流す猛烈な激流となっていた。浅瀬は完全に消え去り、深い割れ目や新しいコースに添って奔流する激流を伴った峡谷となっていた。

キャンプ場から脱出する道は他になかった。我々はここに留まる事が出来たし自分自身を処置する事が出来た。しかし我々のゲストである婦人や子供達にはそれは困難であった。峡谷を越してなわばしごを投げることはできたが、それでは

交通機関（自動車等）を放棄し、最も近い住宅まで非常に長くてやっかいな道のりを歩かねばならなくなる。異口同音に橋をかけようを決定した。なわばしごやモンキークリッジではなく、空中移動機でもない、交通機関や装備、それにももちろん人々も渡ることの出来る道路橋である。

そこで15カ国の人々による15カ国の橋の英雄物語 (Soga of the Bridge of Fifteen Nations) が始まった。

材木はたくさんあるので有用なものが利用された。作業者は自発的であり、熟練であり有能であった。その人達は結びやつなぎや基本的パイオニアリングを知っていた。

3時間程経過しあたりが暗やみに包まれるころ、最初の車小さなレナルト。が用心深くその橋を渡って行った。車が峡谷の向こう側の堤防へかけ上がって行った時、15カ国の人々からいっせいに騒々しい、しかし心暖まる歓呼が起った。

我々はずぶぬれになり、疲れ切っていた。何人かが打撲症を受け、切り傷を受けたが精神は決して打ちのめされなかつた。次の半時間には全ての車と全ての人達が橋を渡ってメキシコ市へ向かって行った。メキシコ市はMamana地方の一部なのであるが、おそらくこれ以上の遅れと言えばちょっとしたパンクぐらいであろう。

本当に記念すべき日であった！

行動においても何もかもがSCOUTING！であった。

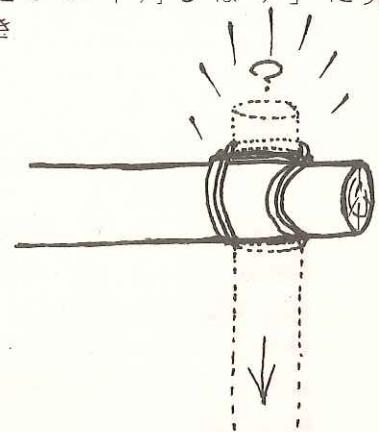
橋を造ることが唯一の答である時に、我々が橋を造れる事を知ったのは素晴らしいかった。

そして何より素晴らしいのは、15カ国の人々が団結して効果的に橋を建造するために働くことができるのを知った事であった。

2 パイオニアリングの基本

1. 結索が正しくできること。

当然であるが、案外これをおろそかにしている者が多いような気もする。表面的には確かに「角しばり」に見えるのだが、固定されているべき丸太がスッポリ抜けてしまったなんて記憶が君達にはありますか？



結索と言ったって何十種類も必要とはしない。基本的なものを5~6種確実に行なうことが出来ればそれで充分！

- A 卷きむすび
- B ねじりむすび
- C 角しばり
- D すじかいしばり
- E はさみしばり
- F 8の字しばり

以上が確実に出来れば一通りのものが組立てられる。もちろん多い方が良いに越したことはないのだが。

結索についての徹則は「動くべき処はスムーズに動き動くべきでない処は決して動かないこと」である。

これが守られていないと危険であるし生命にかかる事になりかねない。

2. 自分の能力に適したものであること。

能力とは、年令・体力・経験等々で、自分の能力以下のことをいくら行なっても何の役にも立たないし（毎週本結びの練習ばかりでは）興味もわからないだろう。といって、能力以上のことを行なおうとすれば確実に失敗してしまう。いくら「失敗をおそれるな」と言っても初めからわかっている失敗に向かって走り出すのは決して冒険ではない。

初めは易しいものから始め、能力の向上と共に、より難しいものへと挑戦していくのが本当の冒険である。

パイオニアリングにおける進歩（PROGRESS）とはどんなことなのか、前述の JOHN THURMAN の言を貸りれば

From the simple to the complicated,
from the easy to the difficult,
from the obvious to the obscure,
from the straightforward to the intricate,
from the secure to the hazardous,
from the mundane to the imaginative,
from the imitative to the original.

である。日本語に直すとどうしてもニュアンスがつかめないので原文を載せた。一応次に訳を載せるが、君達自身でより良い日本語にしてほしい。

単純なものから複雑なものへ
安いものから難しいものへ
解かり易いものから解り難いものへ
簡単なものからこみ入ったものへ
安全なものから冒険的なものへ
世俗的なものから空想的なものへ
模倣から独創的なものへ

再度述べるが、パイオニアリングを初めて行なおうとする者は必ず単純なもの、安いもの、解かり易いもの、簡単なものから始めなければならない。それらはパイオニアリングの原理を容易にのみこめ、しっかり練習するという態度を最初の段階で身につけられる基本だからである。

万一初めに難しいものに挑戦し、運良くそれがうまく組立てられたとしたらそれは「不幸」と呼ばざるを得ない。なぜなら彼は「運」によって成功したのであって「知識と経験」の裏づけがないから、この次行なう時、果して安全なものが確実に完成するかどうか疑問だから、しかも悪いことに彼は自分のことを「熟練している」と思ってしまっている。

ある人は彼の事を「スカティング」と呼んでいる。

「パイオニアリング」という言葉本来の意味するものは、単に丸太を組立てることではなく、何か新しいものを発見することを求めたり、解決不可能と思われる問題の答を探したり、既知の原理と異った方法に応用しようと試みたり、新しい原理を発見しようと試みる、その様な道に踏み出すことである。眞の冒険及びそれ故の眞のパイオニアリングを行なおうとする者は常に経験に富んだ完全な準備を怠ってはならない。

山を征服した人は同時に、自分の経験からの準備をすること及び過去の人達から集めた経験をも自分のものとし、自分の能力を完全に理解することに成功した人もある。

想像性に富んだパイオニアリングを素出し、それを成功裏に実行できるシニアスカウトは一朝一夕にそうなったのではない。彼自身と仲間の能力を完全に知ったからであり、単純なものを完全に行なえるまで練習したからであり、原理を身につけたからであり、何よりも訓練を重ねて経験をつみ、完璧なシニアスカウトになったからである。

3. 実施にあたっては安全に心がけること。

A. 注意をそらさないこと

組立てている間は、決して他に注意をそらさない。特にカケヤで丸太を打ち込んでいる時や、タワーを引き起こす時、ブリッジをかけている時等々、一瞬の気のゆるみによってどんな大事故が起きないとも限らない。丸太を結びついている時だって他に注意をそらせていると、結び目がゆるみ、グラグラするタワーが出来上がってしまう。

疲れて来れば自然に気もゆるんでくるので、一時間に一回ぐらいは必ず休憩する事。又、二時間限度とし、それ以上かかりそうな時はあっさりあきらめるか、次回にまわす事。どんなパイオニアリングだって二時間あれば、完成するはずだが、もっともスタッフの能力と、集中力にもよるが。どんな簡単なものでもノラリクリアリ作業していたのでは何時間かかっても完成しないのは当然であろうし、表紙のイラストのような状況で事故が起らぬ方が不思議であると思いませんか？どんなカワユイガールがそばに居てもわき目もくれず一心不乱に作業し、完成したあかつきには一諸に喜びを分かち合う……それの方がずっとずっとカッコ良いシニアスカウトなのです！

B. パイオニアリングは空中サーカスショーではないときどき次の様な光景を目にする。

「〇〇君、あのタワーのてっぺんにこの丸太を結んできてくれ」

「あんな高い所に？危ない事はいつもオレにまわってくるんだから……落ちたらどうする！」

「君が一番身が軽いのだから、それにオレがここで見ていてやるから大丈夫さ」

「……………」

命綱もつけないで、しかも完成前のタワーによじのぼっていた〇〇君の安全は下から見上げているだけでは決して保障されていない。いくら身が軽いからと言って、いくら勇気があるからと言ってもそんな行為は冒険ではなく、「暴険」である。トレーニングと経験によっていくらでも取り除くことのできる危険に対し、無知・無思考によって

いかだ

自分自身や仲間をさらしておくる様な者は冒険家・探検家の名を許されるにはふさわしくない。

「自分の両足を地につけて」作業をするのが徹則であり、樹上等空中作業がどうしても必要な時は、命綱をつける等安全に気をつかう。安全対策に「やり過ぎる」ことは決してない。

完成前の建造物にはぜったいに登ったり渡ったりしないこと。次に述べる点検が終わるまでは、いくら自信があるにしても、それらは未完成品であり危険きわまりないものと心得るべし！

我々は空中サーカスショーを行なうのではない。見ている者をはらはらさせるのはサーカスプレイヤーだけで良いのだ！

c. 点検が済んで初めて完成する。

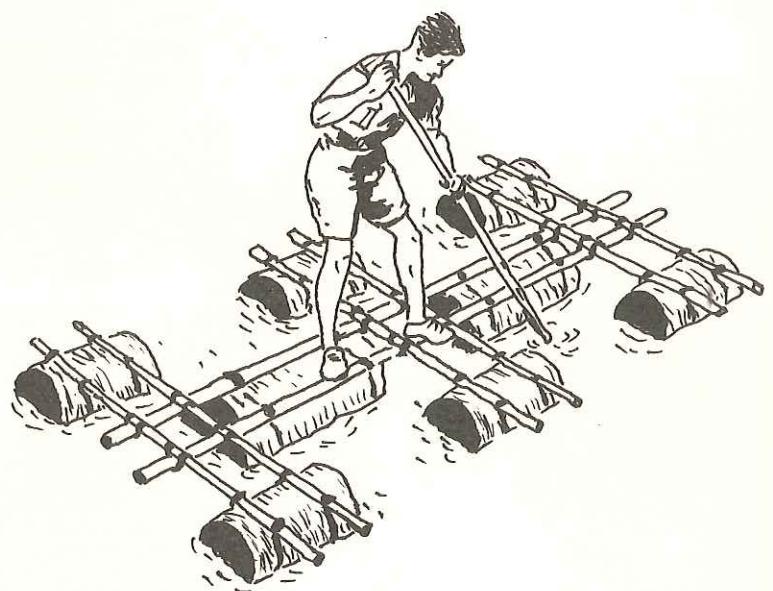
パイオニアリングの組立てが済んだ時は本当にうれしいものである。たとえゆがんでいようが不細工であろうが、「オレ達で作ったのだ」という感激は言葉に表わせないぐらいであり、一刻も早く試したいものだ。一番乗りを目指してジャンケンをしたり先輩の絶対的権限？によって他の仲間を押しのけたり……

でも、ちょっと待って下さいませんか？

- ※結索は完全に出来ているか
- ※組み方が正しく合っているか
- ※なわばしごがゆるんでいないか
- ※平行・垂直・角度は正しいか

その他、大事なポイントを点検することを忘れて即座に試乗したりすると川の中にダイビングしたり、地球にぶつかってその固さを思い知らされたり、危険がいっぱいなのだ。なわばしごが途中で切れたという経験を持つスカウトもきっといるにちがいない。

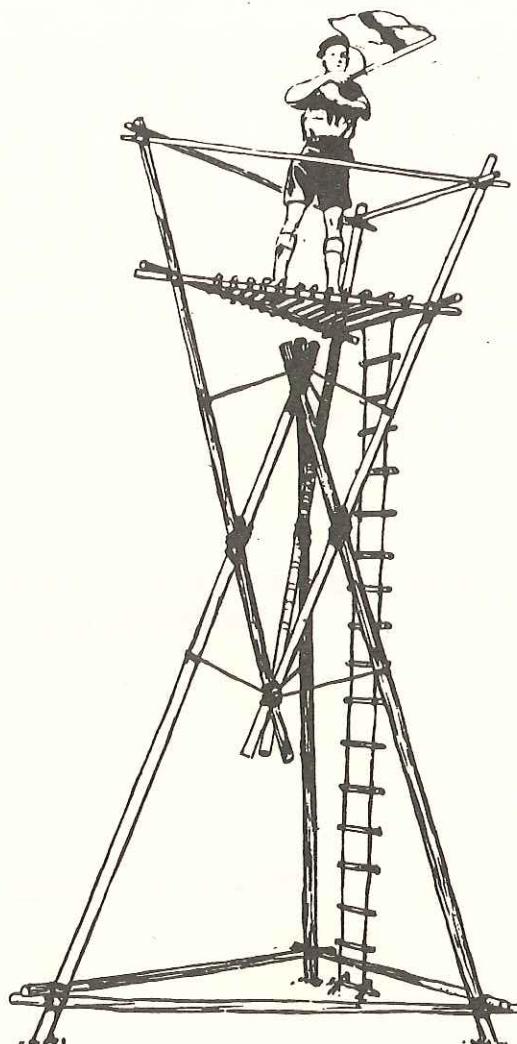
ひどい班になると、前述の空中サーカスによって組立てたり、「大丈夫かどうか、上に登ってゆすってみてくれ」という特攻隊的決死隊的？点検を行なっている。おそらく「墜落したら作り直しだ」と考えてそんな事を行なっているのであるまい。「オレ達が作ったのだから絶対まちがいない」というウヌボレのなせる業だと思う。もし今までずっとそういう方法で点検を行なって来たなら、今すぐにでも考え方を改めなさい。君や君の仲間が地球とラブシーンを演じる前に!!!



必要材料

丸太（竹）	長さ 3.5m.....	6 本
	〃 4 m.....	2 本
ラッシング	長さ 7 m.....	12 本
	ドラムかん用あらなわ.....	適量
その他	5 ガロンドラムかん.....	6 個
	40ガロンドラムかん.....	2 個
	かじ棒.....	1 本

ピラミッド塔



必要材料

丸 太：長さ 5 m の物	3 本
長さ 4 m の物	3 本
長さ 3 m の物	3 本
長さ 2 m で細目の物	3 本
2 m から 1 m 迄の長さの棒	12 本
ラッシング（繩索）	
長さ 7 m の物	5 本
長さ 4.5 m の物	15 本
足場と梯子に使う細目の綱	26 本
その他：綱梯子	

PIONEERING PROJECT

領布 手数料実費

昭和52年 6月 3日

初版発行

編者並
発行者 京都市上京区今出川通大宮東入
惣司純治

発行所 日本ボーイスカウト京都連盟
北山地区 一休さんの会

印刷所 PEO PRINT OFFICE KYOTO

無断転載、複製を禁ず